

烏山城

烏山城は喜連川丘陵の一支脈に築かれた山城です。城の東側は大きく蛇行を繰り返す那珂川、西側は江川、南側は那珂川、江川、荒川の3河川が合流する氾濫原、北側は大小の谷が複雑に入りくむ丘陵地帯と那珂川の蛇行によって形成された狭地となっています。この様に周辺の地形が険しく、守りに有利なことを巧みに利用した要害の地を選んで築城したものと考えられ、今も人々は段丘地形や蛇行地形など川（水）が作った地形を利用し市街地を形成していることから、那須烏山ジオパーク構想ではジオサイトの一部としても整備を進めています。



編集・発行

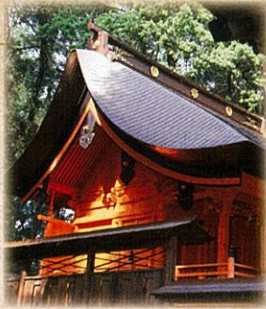
那須烏山市教育委員会 文化振興課

栃木県那須烏山市大金240 電話0287-88-6224

城主名		称号	在任期間	事項
那須氏	1	資重 沢村五郎	1418～1434 (応永25年)(永享6年)	那須余一宗隆子孫、那須資氏二男。現在地に城郭を築き、下境の稲積城から本拠を移したと伝わる。
	2	資持 越後守	1434～1467 (永享6年)(応仁元年)	資重嫡子。この代から那須氏を名乗る。
	3	資実 伊予守	1467～1494 (応仁元年)(明応3年)	資持嫡子。明応2年(1493)、城郭の拡張を行い、筑紫山の八幡宮を宮原へ移す。 地図①
	4	資房 修理大夫	1494～1516 (明応3年)(永正13年)	資実嫡子。永正13年、上那須氏の断絶により、那須上下の庄を統一する。明応9年(1500)、天性寺を再興し、菩提寺とする。
	5	政資 吉崎守	1516～1546 (永正13年)(天文15年)	資房嫡子。永正13年より、上那須の山田城主となる。
	6	高資 修理大夫	1546～1551 (天文15年)(天文20年)	政資嫡子。天文18年(1549)9月、五月女坂の合戦で宇都宮尚綱を討ち取る。天文20年1月、千本資俊の館にて謀殺される。
	7	資胤 〃	1551～1583 (天文20年)(天正11年)	政資二男。始め森田城主。高資の死去により家督を相続する。永禄3年(1560)、大桶村の牛頭天王を城下に勧請する。
	8	資晴 〃	1583～1590 (天正11年)(天正18年)	資胤嫡子。天正13年(1585)12月、滝の太平寺にて千本資俊・隆継を謀殺する。天正18年(1590)、豊臣秀吉に小田原退参を咎められ所領を没収される。
織田信雄			1590～1591 (天正18年)(天正19年)	織田信長二男。小田原戦役後の論功行賞で、豊臣秀吉の怒りをかい尾張国清洲から転封となる。翌年、秋田へ移される。
成田氏	1	氏長 下総守	1591～1595 (天正19年)(文禄4年)	成田長泰嫡子。会津福井城から転封となる。文禄元年(1592)、文禄の役で肥前名護屋城に参陣する。長忠を養子として家督を相続させる。
	2	長忠 左衛門尉	1595～1616 (文禄4年)(元和2年)	氏長弟。慶長5年(1600)、関ヶ原の戦いで徳川方に属し、下野国にて上杉景勝の南下に備える。戦後、本領を安堵される。
	3	氏宗 左馬介	1617～1622 (元和3年)(元和8年)	長忠二男。徳川方として大阪冬の陣、夏の陣に出陣し、戦功を挙げる。家督問題で改易となる。
松下重綱		石見守	1623～1627 (元和9年)(寛永4年)	松下之綱二男。常陸国小張から転封となる。陸奥国二本松へ転封される。
堀氏	1	親良 美作守	1627～1637 (寛永4年)(寛永14年)	堀秀政二男。豊臣秀吉に近侍し、天正19年(1591)、羽柴氏と豊臣の姓を下賜される。下野国真岡から転封となる。
	2	親昌 〃	1637～1672 (寛永14年)(寛文12年)	親良嫡子。寛永17年(1640)、追手門と神長門を創建する。 地図②③ 万治2年(1659)、城の山麓に三の丸を築く。信濃国飯田へ転封される。
板倉氏	1	重矩 内膳正	1672～1673 (寛文12年)(延宝元年)	板倉重昌嫡子。三河国中嶋から転封となる。寛文12年12月、老中に列せられる。
	2	重種 〃	1673～1681 (延宝元年)(天和元年)	重矩二男。城下の区画整理を実施し、城下町の体裁を整える。武蔵国岩槻へ転封される。 地図④
那須氏	1	資祇 遠江守	1681～1687 (天和元年)(貞享4年)	増山正利弟。下野国福原から転封となる。滝の太平寺に天蓋を寄進する。
	2	資徳 与一	1687～1687 (貞享4年)(〃)	津軽信政三男。家督問題で改易となる。
永井直敬		伊賀守	1687～1702 (貞享4年)(元禄15年)	永井尚庸二男。河内国から転封となる。5代将軍徳川綱吉に近侍する。播磨国赤穂へ転封される。
(比企長左衛門)		幕府代官	1702～1703 (元禄15年)(元禄16年)	永井氏転封により城主不在となり、一時幕府代官の管理下に置かれる。
稲垣氏	1	重富 対馬守	1703～1710 (元禄16年)(宝永7年)	稲垣重昭嫡子。上総国大多喜から転封となる。
	2	昭賢 摂津守	1710～1725 (宝永7年)(享保10年)	重富嫡子。志摩国鳥羽へ転封される。
大久保氏	1	常春 佐渡守	1725～1728 (享保10年)(享保13年)	大久保忠高嫡子。近江国三雲から転封となる。8代将軍徳川吉宗の信任厚く、若年寄、老中職を歴任する。 地図⑤
	2	忠胤 山城守	1728～1759 (享保13年)(宝暦9年)	常春嫡子。享保～宝暦年間、都合4度の大坂加番を仰せ付けられる。
	3	忠郷 伊豆守	1759～1769 (宝暦9年)(明和6年)	忠胤二男。宝暦12年(1762)、宮原八幡宮に庵を奉納する。
	4	忠喜 山城守	1769～1805 (明和6年)(文化2年)	忠郷弟。領内に心学を導入し、領民の教化を図る。
	5	忠成 佐渡守	1805～1827 (文化2年)(文政10年)	松平忠恕三男。忠喜の養子となり家督を相続する。藩政改革を実施し、財政の立て直しを図る。 地図⑥
	6	忠保 〃	1827～1848 (文政10年)(嘉永元年)	忠成嫡子。天保8年(1837)、二宮尊徳の助力を得て領内に報徳仕法を導入し、荒廃した農村の復興を図る。
	7	忠美 〃	1848～1864 (嘉永元年)(元治元年)	忠保三男。安政2年(1855)、城下の繁栄を願い日光から毘沙門天を勧請する。
	8	忠順 〃	1864～1869 (元治元年)(明治2年)	忠美嫡子。版籍奉還により烏山藩知事となる。後に子爵となる。

① 宮原八幡宮本殿

明応2年(1493)烏山城主那須資実が城域拡張を行う際、現在地に移転遷宮したと伝えられています。本殿は三間社流造。永禄3年(1560)那須資胤が寄進した内陣中央扉が現存します。平成5年～8年に保存修理が行われました。



⑤ 大久保常春公木像

烏山城主大久保常春は、8代将軍徳川吉宗によって老中加判の列に加えられましたが、享保13年(1728)9月8日、現職のまま江戸藩邸で病没しました。享年54歳でした。吉宗は常春の死を悼み、衣冠束帯姿のこの木像と宮殿を作らせたと言われています。



旧跡散策マップ



④ 那須家六代の墓

天性寺墓地上段に墓所があります。延宝3年(1675)、烏山城主板倉重矩が城内拡張のため、旧地福泉坊から現在地に移転されました。下那須氏のものと推定されますが、墓石名は風化により判読できません。

② 太平寺仁王門

烏山城主堀親昌が寛文元年(1661)、亡父親良の菩提を弔うため東江寺を建立した時の建築で、寛文12年、信州飯田へ転封の際に太平寺に寄進移築されました。市内に唯一残る楼門で、仁王像を安置しています。



③ 神長門(烏山城裏門)

烏山城主堀親昌は、寛永17年(1640)に追手門と神長門を創建しました。この門は、堀家創建時のものではなく、江戸時代末期頃に建て替えられたと推測されますが、烏山城で唯一現存する建造物です。明治18年、現在地に移築されました。



⑥ 耕便門の碑

烏山城主大久保忠成の治世から殖産の一環として新田開発のための隧道工事が進められ、文政9年(1826)6月完成。約40haの水田が開かれました。碑は隧道出口に建ち、碑文と書は忠成のものです。

